

●被災者からの手紙.1【2011年9月】

宮城県岩沼市 遠藤 和美さん

…あの日から季節が変わっても、私の心は変わりません。亡骸を見、埋葬をすませても認めることができない夫の死。ふとしたことで思い出しては涙…本当は、後を追って死のうて、思いました。

でも、私には週3回人工透析をする左半身付随の母親がおり、夫と二人で週2~3回洗濯物を病院に取りに行く日々を過ごしていたので、友達に、「ばあちゃんの面倒見る人がいなくなるから、おとうさん(夫)は、あなたを残すために、あの世に連れていかなからんだから、生き抜きなさい」と言われ、そう思って、納得しようと努力しています。

私がみなさんに言えることは**毎日**を大切にということです。今日という日は二度とありません。

もし好きな人がいるのなら、相手の思いやりをもって、たくさん会話してほしいと思います。…

今日という日は二度とありません



10.22 宮城 岩沼 遠藤和美さん 遠藤さんの夫が亡くなった直後の写真です。



10.22 宮城 岩沼 遠藤和美さん(左)のシヤット(右)は亡くなったおとうさんの写真です。いつも愛して居ました。



11.21 宮城 岩沼 遠藤和美さん(左)と知り合いの遠藤さん(右)とのお話です。

●被災者からの手紙.2【2012年9月】

宮城県岩沼市 遠藤 和美さん

…夫はまさに太陽でした太陽がなくなったら暗闇の世界です。みなさんに歌っていただいた夫が大好きだったサザンオールスターズ「TSUNAMI」歌の中に、「見つめ合つと素直におしゃべり出来ない」という歌詞があります。みなさんの歌声を聞きながら、とてもシャイな夫の歌う姿が蘇り、頭と心は夫一色でした。

あのとき、私は夫との思い出の中にいました。二人で過ごした日々、通った道…今も夫の亡骸が目の奥に焼き付いて忘れられないのです。そして泣く毎日。これを幾度となく、くり返し、くり返し…

でも、確実に語ることは**震災**がなければみなさんとも出会えなかった。この交流が私を元気にさせてくれています。夫が出会わせてくれたと信じ、心より感謝します。
(文中の歌、は同年7月、岩沼での交流会の思い出)



2012年7月



2012年7月



2012年7月

津波被害に家族を奪われた
宮城県の遠藤和美さんの手紙